

2012 Vol.

25

'08-'12 文部科学省私立大学  
戦略的研究基盤形成  
支援事業採択

2012年もはや2ヶ月がすぎようとしています。  
KIHSでは、年度末にかけてたくさんの研究会を開催します。  
随時ホームページで予告していますので、ぜひご参加ください。  
みなさまのおこしをおまちしております。





## 活動報告

プロジェクト4では、心理療法に関わる専門性について様々な観点から調査・研究を行って参りました。これまでも心理士初学者と経験者の見立ての相違や、心理療法における倫理の問題など多様な観点から心理療法の専門性について検討を行っています。

今回の研究会では、京都大学の大山泰宏氏（京都大学／臨床心理学）をお招きし、「『心理臨床』の専門性を共有する」と題して、「心理臨床」とは何か、その専門性とは何か、その専門性をどのように継承していくかについてご講演がありました。まず大山氏は、近年の心理士を取り巻く状況は、個々の心理士に心理臨床のコアが問われる状況にあると言います。心理士の若年層が増えている現況は、心理士の専門性の継承を難しくしています。また、複数の領域にまたがって勤務する心理士の増加や、領域の細分化によって求められる専門性も細分化されることで、心理士としてのアイデンティティが揺らぎやすい状況もあります。大山氏は、このような背景が心理士間で心理臨床のコアを共有しにくい状況をもたらしていると指摘します。また、大山氏のご自身のドイツでの経験から、言葉や国を超えた普遍的な心理臨床のコア成るものが存在する可能性や、その一方で日本の心理臨床の考え方に精神分析的なアプローチと森田療法的なアプローチの両方が存在する特殊性の可能性について話題提供がありました。また、心理臨床のコアなるものを明確に語ることは難しい作業であるとはいえ、心理臨床のコアの周辺を語り、それを積み重ねていくことで少しずつ明確化されるのではないかと指摘がありました。大山氏の研究成果や内外の研究成果を踏まえて、心理臨床のコアに関わるものとして、多様な可能性や解釈に開かれた態度、見立てを絶えず修正しながら関わる態度、面接者とクライアント間での身体共鳴の成立、フォローアップ発話中心の関わり等を挙げられました。これらを踏まえて、全てのよい心理療法の基底にはやはりクライアント中心療法の要素が含まれていることと、面接の場で生じていることを把握しつつもそれ以外の可能性に開かれている態度、そしてまだ言葉になる前の自分の微細な心の動きに開かれている態度が、心理臨床のコアを構成するいくつかの側面ではないかという指摘がありました。

穂苅千恵氏（山王教育研究所）との討論では、臨床心理ではなく心理臨床と語るときに含まれる専門性とは何か、心理臨床で言われる他領域と多領域の相違、心理臨床のコアが共有されないことの弊害、心理臨床のコアをいかに継承していくか、学派を超えた心理療法のスタンスの相違、などが議論となりました。

当日は、研究会メンバー以外にも、教育・医療・福祉など様々な領域で心理臨床に携わる方々が多く参加して下さいました。このことからこのテーマに対する心理士の関心の高さと重要性を改めて感じる回となりました。

今回、心理臨床の専門性に関して議論になった様々な観点は今後も検討していきたいと考えております。

### プロジェクト4. 心理療法の現在に関する検証 —臨床と研究の即応的関係の構築—

#### 第64回 公開研究会

## 『心理臨床』という専門性の 共有を考える



第64回公開研究会の様子

日 時：2011年12月4日（日）14：00～16：30  
場 所：甲南大学18号館3階 講演室  
講 師：大山 泰宏（京都大学／臨床心理学）  
企画・司会：高石 恭子（甲南大学／臨床心理学・学生相談）  
指定討論：穂苅 千恵（山王教育研究所）

## 第5回 思春期発達支援研修会

# 精神医学・脳科学からみた 発達障害



根来 秀樹 先生

日 時：2011年12月16日(金) 16:30～18:30  
場 所：甲南大学18号館3階 講演室  
講 師：根来 秀樹 (奈良教育大学教育学部／児童  
青年精神医学)  
企 画：森 茂起 (甲南大学文学部／臨床心理学)  
南野 美穂 (甲南大学大学院人文科学研究科  
／臨床心理学)  
司 会：南野 美穂

本研究所では実践活動の一環として、心理臨床カウンセリンググループとの共催で、発達障害あるいはそれと同様の困難を抱える子どもたち(小学校5年生～中学校3年生)とその保護者を対象に、思春期発達支援事業(愛称:フレンズクラブ)を行っています。プログラムは、子どもグループと保護者グループに分かれ、それぞれ別の部屋でグループワークを実施しています。参加する子どもたちは「対等な友人関係を築きたい」と願いつつも、それに必要な年齢相応のスキルを持たないがゆえに、十分な仲間関係を経験しにくい状況にあります。そこで、子どもグループでは、スタッフが子ども一人ひとりのサポートにあたり、子どもの内面を受容しつつ、ソーシャルスキルを分かりやすく伝えることで、望ましい仲間関係の経験をできるように支えています。また、保護者グループでは、スタッフがファシリテーターとして加わり、育児における悩みや解決方法を共有し、子どもたちのよい変化をスタッフから伝えるなどを行っています。このようにフレンズクラブは、同年代の仲間関係を体験する場として、また保護者たちの子育てを支援する場として機能しているのではないかと考えています。子どもたちもその保護者もグループに参加することの手応えを感じられているようで、うれしいことに継続して参加される方も少なくない状況です。

例年、年に1回、スタッフの研修として思春期発達支援研修会を開催しております。今回の研修会では根来秀樹氏(奈良教育大学教育学部／児童青年精神医学)をお招きし、「精神医学・脳科学からみた発達障害」と題して、最新の脳科学研究から分かってきた発達障害に関する知見や、研究・理論に基づいた実践への示唆についてご講演がありました。近年は、発達障害に対する社会の認識の広がりに呼応し、教育・医療・福祉・司法など、あらゆる領域で発達障害に関する問題がとり沙汰されています。いまや対人援助職にとって、どの領域においても発達障害というテーマは避けては通れない問題となりつつあるといえるでしょう。また、脳科学による研究の進展により、少しずつではありますが発達障害と脳の関連性が明らかになりつつあります。このような脳科学からみた発達障害に関する最新の研究成果を根来氏にご講演をいただきました。まず、運動や感覚を司る脳の部位についての説明があり、脳に関する基本的な知識を分かりやすく教えていただきました。またPhineas Gageの症例に始まり、衝動性と脳の関連性を具体例として、脳とこここの関係性についても説明がありました。次に、発達障害の脳科学による研究成果が紹介されました。中でもAD/HDと定型発達の子どもの対象に注意記憶課題を実施・比較した実験では、両者のパフォーマンスはほぼ同じでしたが、前頭前野の活性の程度は異なるという実験結果となりました。このことは、AD/HDの場合、注意や記憶を補うために脳の他の部位が代償的に働いている可能性が示唆され、とても興味深い内容でした。最後に、LDやAD/HD、PDDといった個々の発達障害について、幼児期から思春期、成人期と各ライフステージに応じた支援のヒントについて説明がありました。特に、思春期や成人期の当事者への支援は、どの現場でもまだまだ模索の段階ですので、実践への示唆に富む興味深い内容でした。

当日は特別支援教育に携わる教諭や心理士、スクールカウンセラーなど多方面から多くの方が参加して下さいました。参加者からは、「最新の医学的知見を得られてよかった」「発達障害と脳について学ぶ機会が少ないので勉強になった」「当事者への具体的な声かけや対処の仕方を学べた」との感想がありました。今後もこのように定期的にスタッフの研修会を開催し、スタッフの知識や技術の向上に努めていきたいと考えております。

これまでの活動

公開研究会

プロジェクト4. 心理療法の現在に関する検証—臨床と研究の即応的関係の構築—  
第 64 回公開研究会

「『心理臨床』という専門性の共有を考える」

開催日: 2011 年 12 月 4 日 (日) 14:00 ~ 16:30

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 大山 泰宏 (京都大学/臨床心理学)

司会: 高石 恭子 (甲南大学/臨床心理学・学生相談)

指定討論者: 穂刈 千恵 (山王教育研究所)

プロジェクト1. 加害—被害関係の多角的研究—和解と赦し—

第 65 回公開研究会

「『鉄の籠』のなかにおいて『閃光』に打たれること  
—二十一世紀世界の恐怖/暴力/知性—」

開催日: 2012 年 1 月 27 日 (水) 16:00 ~ 18:00

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 下河辺美知子 (成蹊大学/精神分析批評、アメリカ文学・文化研究)

企画: 港道 隆 (甲南大学/哲学)

研修会

第 5 回 思春期発達支援研修会

「精神医学・脳科学からみた発達障害」

開催日: 2011 年 12 月 16 日 (金) 16:30 ~ 18:30

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 根来 秀樹 (奈良教育大学教育学部/児童青年精神医学)

企画: 森 茂起 (甲南大学/臨床心理学)

南野 美穂 (甲南大学大学院人文科学研究科/臨床心理学)

司会: 南野 美穂

第 3 回 アートセラピーワークショップ

「認知症ケアのためのアート3

～アート回想療法の体験型ワークショップ～」

開催日: 2011 年 12 月 3 日 (土) 13:00 ~ 15:00

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 今井 真理 (四天王寺大学准教授/芸術療法士)

企画: 内藤あかね (甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)

これからの活動

公開研究会

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育ての意識の多相性についての研究  
第 66 回 公開研究会

「社会的ひきこもりに見る親と子の関係」

開催日: 2012 年 3 月 13 日 (火) 18:30 ~ 20:30

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 安住 伸子 (神戸女学院カウンセリングルーム)

企画: 高石 恭子 (甲南大学/臨床心理学・学生相談)

プロジェクト4. 心理療法の現在に関する検証—臨床と研究の即応的関係の構築—  
第 67 回公開研究会

「発達障害と過去の体験—タイムスリップ現象再考—」

開催日: 2012 年 3 月 16 日 (金) 13:00 ~ 15:00

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 杉山登志郎 (浜松医科大学特任教授/児童青年精神医学)

企画: 森 茂起 (甲南大学/臨床心理学)

プロジェクト1. 加害—被害関係の多角的研究—和解と赦し—

第 68 回公開研究会

「恒藤恭における戦争責任と平和国家の考究  
—日本の「和解」と「更正」の問題から—」

開催日: 2012 年 3 月 16 日 (金) 16:30 ~ 18:30

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 広川 禎秀 (大阪市立大学名誉教授/日本近現代史)

企画: 港道 隆 (甲南大学/哲学)

プロジェクト3. 芸術学と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究

第 69 回公開研究会

「セラピストとしての芸術家—参加型アートと複数の場をめぐって」

開催日: 2012 年 3 月 (予定)

場所: 甲南大学 18 号館

講師: 石谷 治寛 (甲南大学人間科学研究所博士研究員/現代芸術)

企画: 川田都樹子 (甲南大学/芸術学)

西 欣也 (甲南大学/芸術学)

第 70 回公開研究会

「発達のトラウマと現代自己心理学

—治療的二者関係における至的な距離—」

開催日: 2012 年 3 月 28 日 (水) 15:00 ~ 17:00

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 富樫 公一 (広島国際大学大学院准教授/精神分析)

企画: 森 茂起 (甲南大学/臨床心理学)

研修会

第 9 回 KIHS 心理臨床ワークショップ

「NET (ナラティブ・エクスポージャー・セラピー) を学ぶ  
—人生史を語るトラウマ治療—」

開催日: 2012 年 3 月 20 日 (祝・火) 10:00 ~ 17:00

場所: 甲南大学 18 号館 3 階 講演室

講師: 森 茂起 (甲南大学/臨床心理学)

共催: 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム

発行年月日: 2012 年 3 月 5 日

編集後記

2012 年は辰年です。辰は、十二支のなかで唯一想像上の動物です。

辰の由来について調べてみました。辰は「蜃」に通じます。蜃は、もともと大きなまぐりを意味するそうです。二枚貝の象形であった辰を、十二支のたつの意味に用いるようになったので、区別のため辰に虫を付して蜃としたそうです。蜃には、「息を吐いて水上に楼台を出現させる」(蜃気楼を作り出す)想像上の動物である「みずち」(龍の一種)とする説もあり、これが辰の由来となったようです。(参考『大漢語林』)

